

令和 5 年度第 3 回羽島市健幸づくり施策検討委員会（会議要旨）

日 時	令和 6 年 1 月 30 日（火） 午後 1 時 30 分～2 時 30 分
場 所	羽島市役所 4 階 第 1 委員会室
出 席 者	<p>（委員）出席者 13 名 田中 吉政（羽島市医師会会長）、加藤 誠一（羽島市自治委員会理事）、河合 悟（羽島歯科医師会会長）、小川 徹（羽島薬剤師会副会長）、高木 豊（羽島市スポーツ協会会長）、山田 洋子（岐阜県立看護大学教授）、浅井 廣志（羽島市民生委員児童委員協議会会長）、鈴木 登司雄（羽島市老人クラブ連合会会長）、高砂 房子（高砂学園理事長）、森山 健（羽島市小中学校長会代表）、立花 智美（羽島市総合型地域スポーツクラブ代表）、不破 直子（羽島市食生活改善連絡協議会会長）、平岩 喜美子（公募委員）</p> <p>（事務局）11 名 松井市長、横山健幸福祉部子育て・健幸担当部長、熊崎健幸福祉部次長兼子育て・健幸課長、佐藤保険年金課長、伊藤高齢福祉課長、柴田スポーツ推進課長、高橋学校教育課長、國井子育て・健幸課健幸担当課長、柴田健幸担当課長補佐、赤嶺健幸増進担当課長補佐、中間予防係長</p> <p>（傍聴者）2 名 花村 隆、原 一郎</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>—傍聴報告および会議の公開について説明、委員の紹介、事務局の紹介、会議資料の確認を実施—</p> <p>3 議事 （1）元気はしま 21 羽島市第 3 期健康増進計画（案）</p> <p><質疑応答等> 委 員：成人歯科健診は、市では 40 歳から 5 歳刻みで 70 歳まで実施している。75 歳以上は、はしま・さわやか口腔健診となり 5 歳刻みで受診ができる。しかし青壮年期健診は 20 歳と 30 歳だけになっているため、20 歳から 5 歳刻みで健診ができるように努力いただきたい。 事務局：歯科健診は生涯に渡り健康を維持していくため重要な政策であると認識している。</p> <p>委 員：市の健幸ポイント事業の対象事業である特定健診や歯科健</p>

診は付与ポイントを上乘せし 3 ポイントにするのはどうか。健幸ポイントの認知度も上がり、健診の受診率向上にもなるのではと思う。

事務局：参考にさせていただきたい。

委員：小児インフルエンザの助成事業について、近隣市町の補助金額は。

事務局：補助額については、全額補助や半額補助など様々である。

委員：小児インフルエンザの接種率は市町で差があるのか。補助による費用対効果はあるのか。

事務局：インフルエンザ予防接種は任意接種となり、接種率の把握はできていない。接種費用助成により接種率が大きく変化するとは考えていない。

委員：市の各種健診のデータは、どのように健幸づくりに利用されているのか。また、国保のレセプトデータや健診データなどの指標を基盤に市の課題を出し、政策に活かしているのか。

事務局：国民健康保険加入者の健康に関するデータを、担当所管課とともに把握をしながら施策を進めている。羽島市は、健診受診率が低いことにも着目し、事業の充実に努めている。

委員：ぎふ・すこやか健診、はしま・さわやか口腔健診の受診者のデータも加味し、基盤となるデータを整備していけるとよい。

委員：各種関係団体と連携した健幸づくりを進めていく中で、看護大学との連携の見通しは。

事務局：現時点では、看護大学との研究などの取り組みは行っていない。今後、健康課題や健幸づくりの面でご指導いただけたらと思う。

委員：現状は、直接的な協働的取り組みはないが、間接的には、専門職を目指し大学で学び、地域で活躍し貢献することが協働で実施をしていることと考えている。また、学生実習の中で、生活習慣病予防が市の健康課題であることを認識し、学生の立場で取り組みについて考える機会をもうけ、市の保健師と検討している。学生教育の中からも協働して行えることを見出していきたい。

委員：これからの 12 年間の計画実施の中で、県と市で母体は違う

ものの大学との連携が施策に入ってくるとよい。

事務局：看護師や保健師の方が、県立看護大学から市内に就職されている方もみえる。羽島市政や高齢化社会について、市とコラボできるようなテーマについても深めていただけるとありがたい。

4 閉会